

第3回 富山市文化財保存活用地域計画策定協議会

と き 令和6年10月8日(火)

午後2時から

ところ Toyama Sakura ビル5階
中会議室

次 第

1 開 会

2 事務局長挨拶

3 議長挨拶

4 協議事項

(1) 令和6年度スケジュールについて【資料1】

(2) 富山市文化財保存活用地域計画骨子案について【資料2】

①将来像について【資料3】

②文化財保存活用における課題と方向性案について【資料4】

③富山市の歴史文化の特徴について【資料5】

(3) 未指定文化財の件数について【資料6】

(4) ワークショップについて【資料7】

5 閉 会

富山市文化財保存活用地域計画策定協議会委員(50音順)

(任期:令和5年6月5日から令和7年3月31日)

	区分	氏名	所属・役職等	専門分野
	商工団体	今川 清司	富山商工会議所産業振興部長	商工
議長	学識経験者	上野 幸夫	職藝学院学院長 市文化財調査審議会会長	伝統的建造物
	その他	菊川 祐介	富山市自治振興連絡協議会副会長	地域振興
	文化財所有者	齊藤 和雄	熊野神社稚児舞保存会会長	民俗芸能継承団体
	学識経験者	島添 貴美子	富山大学教授 市文化財調査審議会委員 富山県文化財保護審議会委員	無形民俗
	学識経験者	鈴木 景二	富山大学教授 市文化財調査審議会委員(会長職務代理) 富山県文化財保護審議会委員	歴史
	観光団体	関野 孝俊	富山市観光協会事務局長	観光
	行政(県)	辻 ゆかり	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室長	文化財行政
	その他	中村 茂信	富山市公民館連絡協議会会長	地域振興
	学識経験者	藪谷 祐介	富山大学講師 市景観まちづくりアドバイザー	建築・まちづくり
事務局			教育委員会事務局 生涯学習課	

第3回富山市文化財保存活用地域計画策定協議会

資 料

日 時 : 令和6年10月8日(火)午後2時から
場 所 : Toyama Sakura ビル 5 階 中会議室

目 次

【資料1】 富山市文化財保存活用地域計画策定事業スケジュール・・・・・・・・・・	1 ページ
【資料2】 富山市文化財保存活用地域計画構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 ページ
【資料3】 将来像について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 ページ
【資料4】 富山市の課題の積み上げと方向性案・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7 ページ
【資料5】 富山市の主な歴史的事象とつながり・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10 ページ
【資料6】 未指定文化財の件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11 ページ
【資料7】 令和6年度ワークショップ企画案・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12 ページ

富山市文化財保存活用地域計画構成

序 章

- 1 策定の背景と目的
- 2 本計画の位置づけ
- 3 計画期間
- 4 本計画の対象となる文化財
- 5 本計画策定の体制と経緯

第1章 富山市の概要

本市の歴史文化の特性のバックグラウンドとなる情報を記載

- 1 自然的・地理的環境
- 2 社会的状況
- 3 歴史的背景

第2章 富山市の文化財の概要

- 1 指定等文化財の概要・特徴→第2回協議会【資料1】参照

- 2 未指定文化財の概要・特徴【資料6】

本計画策定事業中の調査結果を反映

- 3 関連する制度

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

第3章 富山市の歴史文化の特性

- ・第1章・第2章をふまえ、富山市固有の歴史文化の特性を記載【資料5】

→第2回協議会【資料6】参照

第4章 文化財に関する既往の把握調査

- ・これまでに本市内を対象とした国・県・市等が実施した把握調査を整理・記載

→第2回協議会【別添5】参照

- ・把握調査が未実施の文化財類型や地区などを記載

第5章 文化財の保存・活用に関する目標（将来像）

- 1 文化財の保存・活用に関する目標（将来像）【資料3】
- 2 将来像を実現するための方向性【資料4】

方向性案 ①歴史を辿り、守りつなぐ文化財

②歴史を紡ぎ、今を彩る文化財

③共につなぐ文化財

第6～8章（程度） 文化財の保存・活用に関する課題・方針・措置

方向性ごとに章を分け、それぞれ課題・方針・措置を掲載

- 1 方向性実現のための課題【資料4】

前章で記した将来像を実現する上での課題を、第4章の既往の把握調査の不足箇所やアンケート等の結果などを参考にして記載

2 方向性実現のための方針

1 で挙げられた課題に対する方針を記載

3 方向性実現のための方針措置

2 の方針を踏まえ、具体的な措置を記載、実施時期や実施主体なども明記

第9章 関連文化財群

1 関連文化財群の設定

2 関連文化財群の保存・活用に関する課題・方針

3 関連文化財群の保存・活用に関する措置

第10章 文化財の保存・活用の推進体制

- ・文化財担当部局や関係部局、博物館等関係機関の職員・専門的人材の配置状況
- ・富山市文化財調査審議会の構成
- ・民間団体等

別添資料

- ・文化財リスト
- ・文化財所有者アンケート結果等

将来像について

【案】

- ① 歴史文化で富山がつながり、文化財を未来につなげる
- ② 住み続けたい歴史文化のある暮らし
- ③ 未来につなぐ富山市の歴史文化
- ④ 歴史文化がつながるわたしたちのまち
- ⑤ 市民が育みつなげる、歴史文化のまち富山
- ⑥ 歴史文化でつなぐ市民の誇り
- ⑦ 文化財で創造する豊かなまち富山
- ⑧ 文化財でつなぐ幸せ日本一とやま
- ⑨ 文化財でつなぐ活力都市とやま
- ⑩ 文化財の恵みで躍動するまち富山

将来像への想い

- ☐ 文化財は自分たちの身近なもの、大切なものとわかってほしい
- ☐ 文化財は暮らしの中にあるということをわかってほしい
- ☐ 文化財は暮らしとつながっている、身近にある、次世代へつなぐ、文化財一つ一つをつないで活用するという意味で、「つながる・つなぐ・つなげる」といった言葉がよいのではないか
- ☐ 富山市は市域が広く、各地域魅力ある歴史文化と文化財を持つが、それらにはそれぞれ「つながり」があること、そして今のわたしたちの暮らしにも「つながっている」ことを市民が共有することで、市域全体の文化財を未来に「つなげて」いきたい

(参考)関連計画

●第2次富山市総合計画

基本理念

安らぎ・誇り・希望・躍動

人・まち・自然の共生から「安らぎ」を広げ、広域的で多様な交流から「誇り」を育み、新しい活力と魅力の創造から「希望」を未来につなげ、これらの相乗効果を生かして、これまで以上に富山市が「躍動」することを基本理念とします。

目指す都市像

人・まち・自然が調和する 活力都市とやま

まちの総合力をさらに高め、賑やかな都市部と自然豊かな山間部など、それぞれが持つ個性を大切に、産業や文化活動などにおける企業や市民の活動が活発で、躍動している都市を目指します。

【まちづくりの目標】

Ⅲ 人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】

政策4 歴史・文化・芸術のまちづくり

富山の文化的アイデンティティ（富山らしさ）を再確認し、次の世代に伝える魅力ある文化を創造するため、伝統的文化・文化遺産の保全・活用のほか、質の高い芸術文化の発信、市民の芸術文化活動への支援を行います。

【主要施策】

施策(1) 伝統的文化・文化遺産の保全・活用

施策(2) 質の高い芸術文化の発信

施策(3) 市民の芸術文化活動への支援

●第3期富山市教育大綱

自立と公共の精神を重んじて教育の高揚を図り、新たな時代を拓く心豊かな市民を育む

- 1 志をかげ、知性をみがき、実践力を高める
- 2 我が国と郷土を愛し、自然に学び、芸術・文化に親しむ豊かな情操を養う
- 3 健やかでたくましい心と体を備える

●富山市スマートシティ推進ビジョン

【方向性】

これまで進めてきたコンパクトシティ政策を継続し、さらに深め、市民生活の質や利便性を向上させるとともに、地域特性に応じた市域全体の均衡ある発展を目指す

【ありたいまちの姿(まちづくりの目標)】その1

【2】地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち

【ありたい暮らし(施策テーマ)】その1

③誇れるものがある暮らし

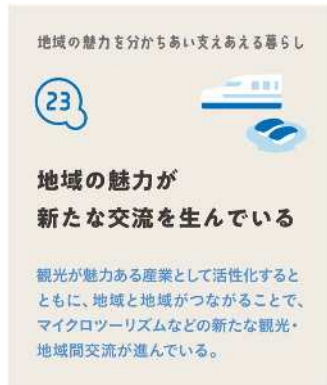
誇れるものがある暮らし	誇れるものがある暮らし	誇れるものがある暮らし
		
伝統や文化が大切に継承されている	美しく豊かな自然が維持されている	地域の魅力が発信できている
まちの文化財や伝統工芸品、祭りなどの伝統・文化が地域の宝として住民にとっての誇りとなり、住民の手によって大切に守られ、継承されている。	森や里山、海、河川などの美しい自然が地域の宝として住民にとっての誇りとなり、住民の手によって自然景観や自然の恵みが大切に維持されている。	住民一人ひとりが「地域の広報担当」として、自らが暮らす地域の魅力に気づき、それを地域の宝として誇りをもって外部に発信できている。

【ありたいまちの姿(まちづくりの目標)】その2

[3]互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち

【ありたい暮らし(施策テーマ)】その2

⑧地域の魅力を分かち合い支えあえる暮らし



●富山県文化財保存活用大綱

今後目指すべき将来像・方向性

「県内各地域において育まれてきた自然、歴史や伝統文化などの魅力を発掘、再発見するとともに、さらに磨き上げ、次の世代へ継承する活動が活発に行われていること」

1 県民が地域の文化財に親しみ、関心を深め、その保存・活用に積極的に参加することにより、地域の文化財の魅力を発掘、再発見する。

2 文化財の保存・活用を推進し、その魅力を国内外に情報発信するとともに、地域の魅力ある観光資源としても活用を図り、个性的で活力ある地域づくりを展開する。

3 県民が地域の文化財の保存・活用に取り組むNPO等に参加し、文化財の所有者や行政機関のみならず、地域が一体となって文化財の次世代への継承を促進する。

富山市の課題の積み上げと方向性案

課題（まとめ）		課題（詳細）				方向性案	（参考） 関係する取り組み等 （▲総合計画□教育振興計画・その他主な事業）
分類	まとめ	関連計画 （▲総合計画□教育振興計画◎県大綱）	文化財所有者意見 （アンケート）	協議会	市民意見 （ワークショップ）		
1 把握・調査	指定、未指定文化財ともに、実態把握が不十分である。	□本市には多様な文化財があり、それらを総合的に把握し、次世代へ継承していくことが求められている。		悉皆調査をすれば、市内全体均等に評価ができる。		”歴史を辿り、守りつなぐ文化財” 本市の歴史や文化財に関する調査を通じて文化財の歴史的価値を把握するとともに、文化財を適正に保存・管理をし、次世代へとつなげる	□富山市文化財保存活用地域計画策定事業 □文化財調査の実施 ・文化財調査審議会の開催 ・埋蔵文化財発掘調査 ・博物館等施設資料収集・調査研究
1 把握・調査		◎有形民俗文化財について、なかでも地域に根ざした職能集団によって伝承され、日常生活を支えてきた用具等は、生活様式の急激な変化に伴い、衰退・消滅の恐れがあることから、市や保存団体等と連携して情報収集や実態把握に努める必要がある。					
1 把握・調査		◎観光資源など地域づくりの核として文化財の活用を図るために、その価値や魅力を再発見・再認識する取組みを一層充実させる必要がある。					
1 把握・調査		◎天然記念物について、高齢化や自然災害による衰退・折損が顕在化していることから、現状把握とともに保護対策への支援を進める必要がある。					
2 保存・管理	保存・管理の計画的な実施及び支援が必要である。	▲伝統的な建造物群の老朽化対策や史跡の保全活用等の対策が必要。 ◎北前船の寄港地として栄えた富山市岩瀬に水橋など個性的で魅力ある町並みが各地に所在する。引き続き、市が行う歴史的な町並みの保存に向けた取組みを支援していく必要がある。 □浮田家住宅などの国指定重要文化財建造物については、経年劣化に対応するため、計画的に保存・修理を行う必要がある。	維持管理や修繕にかかる費用負担が大きいと感じている所有者がやや多い。				□指定文化財建造物の保存・修理 ▲□岩瀬地区北前船廻船問屋相互活用整備
2 保存・管理		□安田城跡歴史の広場においては、史跡安田城跡を適切に保存管理し、地域の歴史的文化遺産として活用を図る必要がある。堀をはじめとした施設は著しく老朽化しており、堀底に泥が堆積するなど、歴史的景観の維持が難しく、史跡の保存への影響が懸念される。	文化財の補修、剪定や周辺環境の整備（道など）が必要。				□安田城歴史の広場再整備事業
2 保存・管理		◎建造物について、次世代に確実に継承していくための計画的な保存修理を推進する必要がある。					・文化財保護支援事業（保存修理等に関する補助や情報提供）
2 保存・管理		◎美術工芸品について、毀損、消失・散逸の恐れがある貴重な古文書、歴史資料の保存修理や収集・寄託を進めることが求められる。					
2 保存・管理	防災・防犯対策が不十分で、支援、体制構築が必要である。	◎建造物、美術工芸品について、防火・防犯設備の整備・拡充や、近年、全国各地で頻発する地震や台風、大雨・洪水など大規模自然災害に備えた防災対策、体制づくりが喫緊の課題である。	防災・防犯対策の負担が大きいと感じている所有者がやや多い。	防災への措置検討が必要。			・文化財防火デーなど防災に対する普及啓蒙・消防訓練等 ・災害発生時の文化財ドクター・レスキュー派遣事業（国・県との連携）
2 保存・管理			防犯・防災対策を特に何もしていない所有者が多い。現状の対策では不安がある。				・文化財保護支援事業（防災設備整備等に関する補助や情報提供）

課題（まとめ）		課題（詳細）				方向性案	（参考） 関係する取り組み等 （▲総合計画□教育振興計画◎その他主な事業）
分類	まとめ	関連計画 （▲総合計画□教育振興計画◎県大綱）	文化財所有者意見 （アンケート）	協議会	市民意見 （ワークショップ）		
3 活用・普及	活用が十分にできていない。 積極的な活用を推進する、効果的な整備が必要がある。	▲岩瀬地区の町並みなど、その地域ならではの歴史や伝統文化を物語る貴重な資源を活用し、まちの活性化につなげていくことが求められる。 □岩瀬地区では、旧森家住宅や旧馬場家住宅をはじめとする北前船廻船問屋建造物の、一体的な活用・整備を図っていく必要がある。	活用していきたい意向があるが、現在活用していない所有者が一定数いる。			”歴史を紡ぎ、今を彩る文化財” 文化財を活用し、本市の歴史文化や文化財の魅力を普及発信する	▲□岩瀬地区廻船問屋建造物相互活用整備（再掲） ・文化財保護管理事業（建造物の管理・公開）
3 活用・普及		◎建造物について、次世代に確実に継承していくための積極的な公開・活用を推進する必要がある。	来訪者への対応ができる整備がないため、活用を考えていない所有者が多い。				・文化財保護管理・普及事業（遺跡・埋蔵文化財）
3 活用・普及		◎史跡について、地域住民が史跡の存在や意義を再認識し、適切な保存管理のもと積極的な活用を図るために、適切で効果的な整備、活用手法を検討していく必要がある。					
3 活用・普及	博物館の展示・普及活動の充実が必要である。 機能強化と魅力向上が必要である。	□郷土博物館をはじめとする人文系博物館は、魅力ある展示により、本市の歴史・民俗・美術の学習機会の提供が求められている		文化財の価値を伝えるには展示施設が必要。			▲博物館・美術館の充実 □人文系博物館の展示・普及活動の充実 博物館等利用促進事業（孫とおでかけ支援事業等） 特別展・企画展等の充実 講演会、歴史探訪ツアー等普及活動 学校との連携（体験活動・出前授業等） 人文系博物館機能等強化の検討
3 活用・普及		□郷土博物館について、城址公園の整備とともに、展示リニューアルの検討、インバウンド観光客向けの多言語対応など、郷土博物館の機能強化とより一層の魅力向上が必要。					
3 活用・普及		□民俗民芸村について、施設の老朽化が著しい館があることから、修繕や長寿命化を適時進めていく必要がある。					
3 活用・普及		□科学博物館について、魅力的な特別展や企画展の開催が求められる。					□科学博物館の展示・普及活動の充実 特別展・企画展の充実 展示の更新・施設の整備 博学連携
4 情報発信	情報発信が不十分である。	◎優れたふるさとの文化財の価値や魅力が十分に認識されていない状況にある。富山売薬、北前船交易などに関わる史料や文化的所産についても、文化財としての保護や情報発信が不十分である。	文化財は観光資源でもあり、周知が必要。	指定文化財の価値がわからなくなっていることもあり、「大切である」と啓蒙する必要がある。市広報紙などで文化財紹介するのはどうか。			・文化財保護普及事業 （文化財解説板設置、富山市博物館等ガイドマップ作成等）
4 情報発信		◎市民や国内外、とりわけ外国人旅行者の観光インバウンドに資する観光資源としての魅力向上や、効果的な情報発信を行うための取組みは不十分な状況にある。 こうしたことから、文化財の価値や魅力をわかりやすく伝えるための先端技術等を活用した文化財の公開活用や情報発信、文化財の美観工場などの観光資源としての質・魅力の工場の取組みなどを促進する必要がある。		城下町であることを観光なども含め活かしてほしい。10万石の城下町、神通川が見えてこないため、家老の屋敷や薬業について富山らしさとしてあった方がよいと考える。			

課題（まとめ）		課題（詳細）				方向性案	（参考） 関係する取り組み等 （▲総合計画□教育振興計画・その他主な事業）
分類	まとめ	関連計画 （▲総合計画□教育振興計画◎県大綱）	文化財所有者意見 （アンケート）	協議会	市民意見 （ワークショップ）		
5学習・意識醸成	学校教育や生涯学習等での歴史文化・文化財にふれあう機会の充実が必要である。	◎埋蔵文化財について、積極的な公開活用を進め、身近な郷土学習の素材として学校教育や生涯学習の場で一層の活用を図ることが必要である。	学校教育での活用が必要。	小学生や中学生に文化財の価値を伝えて、後継者を養成できればよい。地元には素晴らしいものがあるということを、小さい頃から教えられるとよい。		"共につなぐ文化財" 市民とともに歴史文化を共有し、連携体制を整え、みんなで文化財を支える	▲生涯学習活動の充実 ▲博物館・美術館の充実（再掲） □人文系博物館の展示・普及活動の充実（再掲）
5学習・意識醸成		（再掲）□郷土博物館をはじめとする人文系博物館は、魅力ある展示により、本市の歴史・民俗・美術の学習機会の提供が求められている					
5学習・意識醸成	市民への意識醸成、魅力創造が必要である。	◎多彩な文化財の発掘・再発見 優れたふるさとの文化財の価値や魅力が十分に認識されていない。		文化財の価値がわからなくなっていることもあり、「大切である」と啓蒙する必要がある。			
5学習・意識醸成		▲先人達が培ってきた風土や歴史・伝統を受け継ぎ、富山の文化的アイデンティティー（富山らしさ）を再確認し、次世代に伝えとともに、市民一人ひとりが文化に親しむ機運を醸成することにより、富山らしい魅力ある文化・芸術を創造することが期待される。 ▲市民一人ひとりが本市に対して愛着や誇りを抱くシビックプライドを一層醸成することが重要。					
6担い手	維持管理の人手が不足しており、支援の充実（発信）や協力体制の構築が必要である。	◎文化財の保存・活用に係る担い手不足	日常の維持管理で人手が必要だが、協力を得る方法がわからない、ふさわしい人がいないといった問題がある。				・継承活動にかかる支援情報の周知・申請手続き
6担い手			所有者の高齢化が進んでおり、後継者がいない（主に無形民俗文化財）という問題を抱えている。				
6担い手	担い手の確保・育成への支援策が必要である。	▲伝統文化の担い手の高齢化や後継者不足が顕在化している状況を踏まえ、次世代への伝統文化継承のための対策が必要。					・ボランティアの参画
6担い手		◎無形民俗文化財について、中山間地の人口減少、少子高齢化による担い手不足の問題が顕在化していることから、顕彰などによる保存意欲の喚起や、担い手の確保・育成の取組みを進めていく必要がある。					
7連携	市民を巻き込んだ協力体制が必要である。	□人文系博物館は、より質の高いものとするため、博物館の連携や市民との協働が必要。					
7連携		◎天然記念物について、地域住民が存在意義を再認識し、保存継承に対する意識の向上や積極的な活用を図るための取組みが必要である。					
7連携	文化財の保存活用を担う組織の構築が求められている。	◎県民が主体となった文化財を活用した地域づくりを一層促進するために、文化財保護や文化振興部局だけでなく、地域振興、観光振興、都市計画・景観づくり部局など関係部局の連携はもとより、地域住民やNPO等の民間団体、地元企業・大学等が共通の意識を持ち、三位一体となって協働できる幅広い連携体制の構築、環境づくりを進める必要がある。					
7連携		◎専門職員の確保と育成など組織の体制整備を務めるとともに、地元の大学や建築士会など関係民間団体等との連携、協働を図っていく必要がある。					

富山市の主な歴史的事象とつながり

資料5

- ：原始～古代
- ：中世
- ：近世（近世以降のもの含む）
- ：近現代
- ：時代特定せず

呉羽丘陵遺跡群

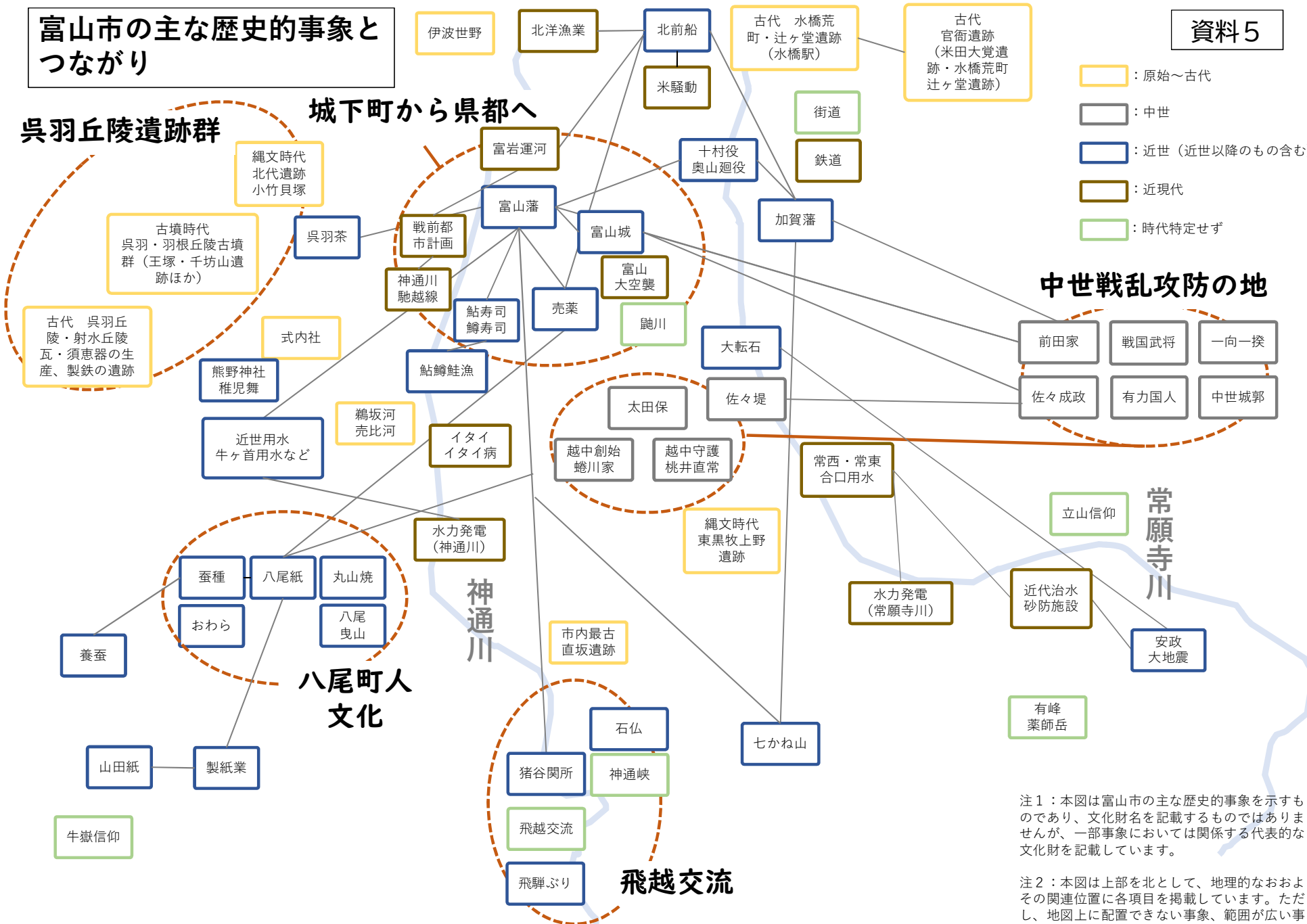
城下町から県都へ

中世戦乱攻防の地

常願寺川

八尾町人文化

飛越交流



注1：本図は富山市の主な歴史的事象を示すものであり、文化財名を記載するものではありませんが、一部事象においては関係する代表的な文化財を記載しています。

注2：本図は上部を北として、地理的なおおよその関連位置に各項目を掲載しています。ただし、地図上に配置できない事象、範囲が広い事象などもあり、必ずしもその項目の位置が地理的な意味をもつものではありません。

未指定文化財の件数

令和6年9月末現在

類型			例示	富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入	不明	合計
有形文化財	建造物		〇〇氏住宅、旧密田家土蔵	273	34	43	57	31	12	14	14	478
	美術工芸品	絵画	富山藩領山方絵図絵巻、船絵馬	83	1	1	1	10	1	1	125	223
		彫刻	楊柳観音菩薩立像、円空仏	31	1	1	0	9	0	1	22	65
		工芸品	青貝細工、立山雷鳥図（中島李堂）	14	0	1	2	1	0	0	97	115
		書跡・典籍	十代利保筆九重桜歌、前田正甫元旦試書き	5	0	0	1	0	0	0	193	199
		古文書	小見亀谷村共有文書、船橋原由之事	5	2	6	1	4	0	3	96	117
		考古資料	新開遺跡出土品、四方北窪遺跡遺物一式	593	88	84	85	139	16	28	0	1,015
		歴史資料	神通川船橋鐵鎖、越中国富山城絵図	57	0	3	9	50	0	2	556	677
無形文化財			とやま音頭、木像嵌	0	0	0	0	0	0	0	12	12
民俗文化財	有形の民俗文化財	生活用具、曳山等祭礼用具、生産用具	210	29	24	53	22	14	8	14	294	
	石造物	石塔、石仏、題目塔、道標	1,515	273	178	109	303	48	86	88	2,600	
	無形の民俗文化財	獅子舞、曳山囃子、天神信仰	313	86	46	102	121	40	43	15	677	
記念物	遺跡	大久保発電所、須坂遺跡、足立塚	995	136	134	182	305	34	48	44	1,850	
	名勝地	神通峡、有峰の自然景観	14	2	2	3	1	1	1	1	24	
	動物・植物・地質鉱物	磯部堤の桜、田尻池（オオハクチョウ飛来）	55	27	77	56	25	12	16	6	258	
文化的景観			山田の棚田、立山・黒部の景観、水橋地区の町並み	10	3	2	2	0	2	3	0	22
その他	郷土食	ます鮎、報恩講料理、蒲鉾	5	4	4	4	4	4	4	4	11	16
	史話・伝承・方言	水神伝説六治古物語、椀貸し伝説	36	21	3	13	33	12	9	11	90	
合計				4,214	707	609	680	1,058	196	267	1,305	8,732

※地域別の数字は重複もあるため、合計は一致しません。

富山市文化財保存活用地域計画
[令和6年度ワークショップ企画案]

1 ワークショップの概要・目的

項目	内容
開催日時	1回目：令和6年12月8日(日) 13:30~16:00 2回目：令和6年12月22日(日) 13:30~16:00
開催場所	ToyamaSakura ビル5階 大会議室
目的	常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう 1回目「知る・学ぶ」 2回目「つながる」 ・富山市は、7つの市町村が合併し広域な市域をもつことから、歴史文化資源を活かしたまちづくりの連携を図ることを目的に、本市の歴史や人びとのくらしと深くかかわりのある常願寺川・神通川をテーマとした、新たな歴史文化ストーリーの構築のほか、未指定文化財の発掘、市民の心の拠り所の発掘も含めたワークショップを開催する。 ・自分たちの行動につなげていく場づくりを行う。 ・最終的なアウトプットとしては、歴史文化ストーリーの作成、関連文化財の発掘、それらの発信・継承のための方策（措置）について考えるところまでいけたらよい。
参加人数・参加対象	20名程度（会場収容人数：講義形式の座席配置で最大180名） 5人×4グループ 富山市の歴史に関心のある方、文化財の保存や活用に関心のある方 全2回参加いただける方 （主に以下のような方々を想定） 高校生・大学生 流域内の地域住民（地域団体）、関係する文化財の保存活用担い手（保存団体等）、一般市民 庁内他部署（教育・産業・観光等）の職員 観光協会、観光ボランティア、商工会議所、その他民間団体 文化財関係者（指定文化財所有者・地域計画策定協議会委員・文化財調査審議会委員）
告知方法 募集方法	告知方法：1ヶ月ほど前から開始 ・ホームページ掲載 ・広報紙（11月5日号、原稿締切日9月18日（水）最終原稿10月中頃） ・チラシ配布 募集方法：はがきまたは申込フォーム（事前申込・抽選） ※広報は11月15日までを周知期間とするため、応募締切は11月20日（水）とする。
講演者	郷土博物館 坂森幹浩館長
ファシリテーター	トークグラフィッカー®山口翔太氏

2 開催内容（案）

1 回目

時刻	プログラム／内容
11:00	集合・準備 ・会場に集合し、最終確認打合せ ・会場設営
13:00～	受付開始 ・名簿チェック
↓ 催事開始 ↓	
13:30 ～ 13:35 (5 分)	1 開会（挨拶：富山市） ・開会の挨拶
13:35～ 13:50 (15 分)	2 文化財保存活用地域計画について（説明：富山市） ・富山市で文化財保存活用地域計画の作成に取り組む意義 等
13:50～ 14:35 (45 分)	3 富山市の歴史と文化（説明：郷土博物館 坂森館長） ・流域の歴史文化の特徴
— 休憩（10 分） —	
14:45～ 15:45 (60 分)	4 グループワーク：常願寺川・神通川流域の歴史文化の特徴を考えよう（45 分） （ファシリテーター：トークグラフィッカー®山口翔太氏） ・山口氏から坂森館長の講演内容の振り返り説明（色入れは終了後完成）。（5 分） ・グループに分かれ、自己紹介。（10 分） 5 人×4 グループ程度 ・常願寺川・神通川流域の歴史文化、おすすめスポット、大切にしているものなどをあげてもらう。もし、何か歴史文化や文化財に関する取り組みなどをしていたらそうした情報も共有する。歴史文化のつながりも意識してもらいながら考えてもらう。（30 分） 回遊型でグループ共有（10 分） ・他のグループのテーブルへ、どのような文化財が集まったか自由に見て周る。 まとめ（5 分） ・ファシリテーターよりグループの特徴をまとめ。 ※最終的な発表・まとめは 2 回目に実施
15:45～ 16:00 (15 分)	5 閉会のあいさつ（挨拶：富山市）（時間調整分を含む） ・閉会のあいさつとまとめ（2 回目ワークショップのご案内） ・当日資料と共にアンケートを配布しておき、回答いただいた方から随時お帰りいただく。
16:00	終了・片付け

2 回目

時刻	プログラム／内容
11:00	集合・準備 ・会場に集合し、最終確認打合せ ・会場設営
13:00～	受付開始 ・名簿チェック
↓ 催事開始 ↓	
13:30 ～ 13:35 (5 分)	1 開会（挨拶：富山市） ・開会の挨拶
13:35～ 13:40 (5 分)	2 ワークショップの説明（説明：富山市） ・最終発表をしてもらうための、流れやワークショップの最終目的 等
13:40～ 14:45 (65 分)	3 グループワーク：常願寺川・神通川流域の歴史文化のつながりを考えよう （ファシリテーター：トークグラフィッカー®山口翔太氏） ・山口氏より 1 回目の振り返り。（5 分） ・1 回目であがった文化財のつながりを考える。（30 分） ・保存や活用の方法について考える。（30 分）
— 休憩（10 分） —	
14:55～ 15:40 (45 分)	4 発表（10 分×4 グループ 40 分） ・各グループであがった文化財やそのつながりを発表。
	まとめ（5 分） ・ファシリテーターよりまとめ。
15:40～ 16:00 (20 分)	5 閉会のあいさつ（挨拶：富山市）（時間調整分含む） ・閉会のあいさつとまとめ ・当日資料と共にアンケートを配布しておき、回答いただいた方から随時お帰りいただく。
16:00	終了・片付け